

# 市政に対する 一般質問

一般質問は、提出された議案にかかわらず、市政全般に対して、議員が執行者の考え方をただすことができるものです。12月定例会では、12月9日・10日の本会議で14人の議員から質問が行われ、論議が繰り広げられました。以下は質問・答弁の概要です。(掲載は質問順、5ページまで続きます)



あやっぴー

## 新たな予算を伴わないゼロ 予算事業に取り組み考えは

公明党 井上 賢二

**問** 栃木県足利市では、新たな予算を伴わずに成果を得ることのできる「ゼロ予算事業」を実施している。創意工夫と新しい発想により事業を立案・実施することで、職員のチャレンジ精神の保持・高揚を図るとともに、市民サービスの向上や経費削減などの実質的な効果も期待できる。今

後に希望もてる事業だと思いますが、市の考えは。また、埼玉県春日部市では、市民利便帳の作成に係る全ての経費を広告収入で賄い、新たな予算を計上せずに作成している。ゼロ予算事業にもなる市民利便帳による市民利便帳の作成を本市でも行う考えはないか。

**答** 財政状況が厳しさを増す中、行政サービスの低下を招かず、市民ニーズの多様化に対応するために、ゼロ予算事業の取り組みは重要であると認識している。市では、職員の自由な発想と取り組みを奨励するため、職員提案制度を実施し、事務・事業の改善や経費削減などにつなげている。今後も予算を必要としない、市民ニーズに合った取り組みを進める。また、現在、一部に広告を掲載したタウンガイドを配布している。市民利便帳は機構改革などの課名変更で使える期間が短い。今後、必要性を検討していきたい。



11月27日、落合キツキの森管理委員会により、2年間にわたり整備されてきた取内の森(落台北1丁目)が、一般開放されました

## 市の未来予想図を分かりやすく 市民に提示できないか

安藤多恵子

**問** 市の総合計画「新時代あやせプラン21」の後期基本計画が策定されたが、近い将来の本市が市民にとってどんなまちなのか、具体的な未来予想図をイラストなどで分かりやすく提示できないか。計画に従って事業を進めていく行政側の視点だけでなく、高齢者福祉や子育て、環境、農

地、公園などさまざまな分野で、市民を中心に見たまちのイメージや暮らし方を示すことが重要と考えるがどうか。また、「ビジョン」を明確にして、その達成のために今何をすることを考えていく、バックキャスト方式を取り入れることも必要と考えるがどうか。

**答** 後期基本計画は、分かりやすく提示するという視点から重要であると認識し、策定している。そのため、計画作成状況の説明を行ういきいきタウントークでは、写真やイラストを多用した資料を作成するなど工夫をしている。計画書編さんでも、どのようなまちの姿になるのか、より分かりやすくイメージできるように記述している。また、現状を基に将来を予測するフォアキャスト方式とバックキャスト方式の両面から検討を進めるとともに、成果指標を新たに設け、より実現性の高い計画となるよう策定している。(ほかに「市民協働のあり方について」「放課後児童の安心と安全の確保について」を質問)

## 二酸化炭素排出量の削減目標達成に向けた取り組みは

市民会議21 笠間 善晴

**問** 地球温暖化対策実行計画の策定が法律で義務付けられ、本市も事務事業に関して平成22年度から5年間の計画を策定した。計画では二酸化炭素排出量を20年度比で6%削減するという目標が設定されている。これまでEISOに基づき削減の努力はされているが、20年度の施設エネルギー

の使用量を見ると、市庁舎や市民文化センター、特に浄水管理センターの電力使用量が大きな数字を示している。このような状況の中、市では23年度の取り組みとしてどの施設を主体として進めていく考えているのか。また、目標達成に向け、今後の取り組みをどのように進めるのか。

**答** 計画では市庁舎や小中学校を含む全ての事務事業から排出される二酸化炭素の6%削減を目標としている。23年度の具体的な事業は現在調整中だが、高効率な照明器具への交換や太陽光発電設備などの新エネルギーの導入、電気自動車や低公害車の導入などを考えている。さらには、浄水管理センターへの太陽光発電設備設置も有効な対策と考えており、導入に向けて検討していきたい。今後、全職員一丸となって、事業の計画段階から地球環境に果たせる役割を考え、実行計画の取り組み項目を横断的に執行し、二酸化炭素排出削減に向けて、全事業を進めていく。

